平成２０年度　第1回鳥取市総合企画委員会

日　時　　平成２０年１１月２８日（金）
午前１０時～正午

場　所　　鳥取市役所本庁舎６階
全員協議会室

１　開会

２　委員長あいさつ

○道上委員長　大変年の瀬の迫ったお忙しいところ、企画委員会にご出席いただきお礼申し上げます。昨今、世界の経済情勢も非常に不透明で、インドではテロが発生するなど、世の中が慌ただしく動いています。予期できないような事件が各地で頻発して、大変嘆かわしい状況でございます。また、国内でも事件が起こっていますし、政府の道筋がはっきりしない中での会議の開催となりました。我々の計画も世界、国と連動していますが、自分たちの足元をきちんとしていくことが市民の生活を守り、安全で安心な暮らしを守り、豊かさを感じることになろうかと思います。その一つのマニュアルが第８次総合計画でございます。この計画は、５年間計画の中間点です。この進捗状況について事務局からご説明いただき、今までの成果について、そして今後についてのご意見をいただきたい。

竹内市長肝いりの鳥取砂丘の砂像が非常に功を奏して、いい意味の波及をしています。来年は姫鳥線の開通を記念した「世界砂像フェスティバル」が開催され、２００９因幡の祭典が大々的に動きだします。新しい、元気のある話題でございます。ぜひ成功させていただきたいと思います。

３　市長あいさつ

○竹内市長　大変慌ただしい時期、鳥取市総合企画委員会に御出席を賜り誠にありがとうございます。道上委員長からお話がありましたように、平成１８年度から２２年度までの５カ年を基本計画期間とする第８次鳥取市総合計画は、ちょうど中間時点です。平成１８年度から２０年度までを前半の３年間と認識し、今それを総括すべき時期にきています。第８次総合計画の着実な前進のため努力しておりますが、計画どおりにいかない点もあり、特に人口減少が続いていることは、大きな課題だと思います。日本全体も人口減少で、鳥取県も同様ですが、人口減少が地域の活力の低下にならないように力を入れています。鳥取自動車道の開通を活かした交流人口の増加の取り組みとして、「鳥取・因幡の祭典」があり、ふるさと就農舎、お試し定住の実施、市民農

園に県外者専用の枠を確保するなどＵＪＩターン者定住対策を進めています。その他若者の市外流出を防ぐため、鳥取環境大学入学就職奨励金の支給をはじめ、引き続き企業誘致や地場産業の振興にも取り組んでいるところです。

また、平成２０年度を協働のまちづくり元年と位置づけ、地域の暮らしに着目し、安全、安心な地域づくり、地区公民館単位のネットワークづくりなど、協働のまちづくりを展開するため、力を入れています。防災、高齢者、障害のある方に対する対応、子育ての取り組みなど、いろんな分野で地域単位での活動を充実させ、地域力の向上を目指しています。

「厳しい経済、社会情勢の中で、足元をしっかりと」と委員長のごあいさつにありましたが、地域を見つめ、新しいことにチャレンジし、本市が今後持続的に発展をとげ続けていくために、第８次鳥取市総合計画に添って頑張ることが大切と考えています。

委員のみなさまには、現時点、さらに後半の事業などについて、建設的なご意見をいただきたいと思います。私をはじめ同席の市職員がご意見を施策に活かしていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

４　議事

（１）協議事項

①第８次鳥取市総合計画の進行管理について

【　実施計画策定のスケジュール…資料１　】

○第８次鳥取市総合計画の実施計画は、向こう３年間の具体的な事業、数値目標などを明らかにしたもの。

○本日は、昨年の総合企画委員会のご審議を経て策定した「平成２０から２２年度の実施計画素案」実施計画についてご意見をいただく。

○現在は、この実施計画に基づき事業を進めながら、平成２１年度予算編成作業に向かっている。

○第８次鳥取市総合計画の基本計画の期間は平成１８年度から２２年度まで。今後、委員のみなさまのご意見等を踏まえて、平成２１年度の予算編成作業や最終年度である平成２２年度までの実施計画を策定する。

○平成２０年度は５年間の計画期間の中間時期。経済、社会情勢に対応した効果的な事業進行をめざし、達成状況を表す数値目標などの検証を行いたい。

○平成２１年度予算が確定後、平成２１と２２年度の実施計画を策定公表し、３月に再度総合企画委員会を開催し、ご審議いただく。

（委員意見なし　了承）

【　平成２０年度の主な取り組みについて…資料２　】

総合計画に基づく事業のうち、１７項目の主要事業についての事務局から説明

①鳥取市納付催告センター運営事業：市税、国保料などの収納率の向上のため、専任オペレーターの集中的な電話催告をＮＴＴに委託し実施。平成１９年度は約７，２００万円程度、平成２０年度上期は約５，７１０万円の税収があった。

②鳥取環境大学入学就職奨励金事業：鳥取環境大学は、市と県が支援して平成１３年に開学したが、現在、学生確保が厳しい状況である。これに対応した鳥取市独自の若者定住対策で平成２０年度から実施。市内在住者で、鳥取環境大学に入学した者と卒業後市内企業に就職した者に対し、入学時または就職時にそれぞれ１２万５千円を支給する制度。経済情勢の厳しさもあり、入学奨励金は６１人(実績)、就職奨励金は２７人（見込み）の交付(予定)状況。

③クブチ沙漠植林サミット支援事業：砂漠緑化という地球環境問題に功績のある遠山正瑛鳥大名誉教授が中国内モンゴル自治区での植林活動を引き継いだ事業。鳥取市は県と民間、商工会議所とで「『２００８日中友好・クブチ沙漠植林サミット』を支援する会」を形成し、今年の５月に中国内モンゴルで開催されたサミットに参加。日中からの総参加者約１５０人が、ポプラ７００本、松２００本を砂漠に植えた。今後も環境問題への取り組みとして実施する。

④人材誘致・定住対策事業：人口増加対策の一環事業。Ｕターン希望者、団塊世代のニーズを確実に捉えて、鳥取市への定住を促進するため、平成１８年９月鳥取市定住促進・Ｕターン相談支援窓口を開設。平成２０年４月から専任相談員を１名増員し、２名体制に。問い合わせ件数が１０月末は約１，７００件、１３８人（６３世帯）の定住が実現。また、現在４０人弱（１４世帯）の方が定住を検討している状況。

⑤地域振興プラン魅力創出事業：各支所単位で地域の特性を活かしたソフト事業を実施し、活性化を図るもの。例えば国府町では、花づくりと緑化推進事業、公衆道徳を大

切にする地域づくり、そのための啓発活動を行うといった内容。河原では、手打ちうどんの復活、福部ではラッキョウによる特産品振興など、地域の特性を活かした様々な活性化事業が盛り込まれている。

⑥市民活動推進事業、⑦自治基本条例の推進事業：「協働のまちづくり元年」の取り組み。市民、議会、行政などがまちづくりに果たす役割、基本理念を明確にした『自治基本条例』を平成２０年３月に制定、本年１０月１日から施行。この条例の理念等に基づいた協働のまちづくりの活動を１０人の市民自治推進委員が推進する。推進委員会は１１月２７日に設置。

⑧鳥取・因幡の祭典事業：２００９年度、鳥取自動車道の開通を記念して開催するイベント。特にオープニングイベントである「世界砂像フェスティバル」を盛大に開催するためPR活動や入場券の販売促進に取り組んでいる。

⑨地域コミュニティの育成支援補助金：「協働のまちづくり元年」の取り組み。市内６１の各地区公民館を単位に「まちづくり協議会」を設立し、地域独自の防災、子育てなど多様な分野での協議会の活動を盛り込んだ『地域コミュニティ計画』に添った事業の実施に対して市が支援を行う。あわせて、市職員が構成員となる「コミュニティ支援チーム」が、協議会の設立や計画策定に職員２７７名が携わっている。

⑩鳥取市知名度アップ大作戦：鳥取自動車道開通によって、関西圏から多くの方に鳥取に来ていただくための事業。関西圏で発刊される産経新聞、神戸新聞、大阪日日新聞などの広告や地下鉄御堂筋線のつり革広告、ＦＭ８０２のラジオスポット広告などで、鳥取市や２００９鳥取・因幡の祭典をＰＲする。今年１２月１３日から２５日まで中之島（大阪）で開催されるイベント「光のルネサンス２００８」（１００万人以上の集客）に砂像のライトアップを設置する予定。

⑪大型空き店舗対策：中心市街地活性化基本計画（平成１９年１１月認定）に基づく事業。店舗が郊外型にシフトする中で、特に中心市街地の空き店舗の解消のため、「空き店舗情報」を発信し、それに基づく合同商談会の開催、テナント誘致などを行う。中心市街地活性化協議会に委託し、厳しい状況であるが県外も視野に入れた活動を実施。

⑫駅前・賑わいまちづくり実証事業：国の「地方の元気再生事業」に採択されたもので、平成２０年１０月４日～１３日に事業実施。駅前の賑わいを創出するイベント等を実験的に行った。駅前太平線の車道半分を歩行者天国にしたイベント、横断歩道の

暫定的な設置、まちなかパーク＆ライド、まちなか砂像展示、中心市街地と鳥取砂丘を結ぶバスの運行などを同時に実施。実験結果を分析し、次年度の取り組みに活かす。

⑬物産振興の体制強化事業：特産品の情報発信やブランド化を促進するため鳥取駅に「鳥取ふるさと物産館（平成２０年５月３０日オープン）」を市が整備。市観光協会が運営している。

⑭砂像製作事業：砂の美術館は第２期（平成２０年４月２６日から平成２１年１月３日）が開催中。１１月２８日までの来館者は２９万６１７人で順調に推移している。多くの方に鳥取市に滞在していただくための仕掛けづくりである。

⑮生活交通確保対策事業：住民の生活交通の実態とニーズを調査し、既存の路線バスなどの活用を図っている。

⑯１００円循環バス運行事業：中心市街地の移動の利便性向上のため、運行ルートの見直しを図りながら、公共交通の空白地帯に１００円循環バスを運行。

⑰鳥取市ＵＪＩターン住宅支援事業：人口増加対策として、県東部以外から転入し、住宅改修または整備される方に経費の１０分の１以内（上限１００万円）を助成する。平成２０年１１月１９日現在で、２４件、６５人、平成１９年度実績は２０件、５３人が受給。

＜平成２０年度の主な取り組みについて意見交換＞

○委員　⑤の地域振興プラン魅力創出事業の取り組みはいつからはじまったのか。

○企画推進部長　平成２０年度からの事業。本年５月に各総合支所別にプロジェクトチームをつくって、地域審議会等と協議をしながら「地域振興プラン」を作成。地域を元気にするための取り組み。

○竹内市長　地域振興プランは第８次鳥取市総合計画をベースにして、各地域の独自の取り組みをまとめたもの。推進するための予算措置も考えている。今年の１１月で合併から満４年を迎えた。改めて市の一体感を高め、各地域の特色を活かした取り組みを展開し、各地域のみなさんも地域振興のために有効活用していただきたい。

○委員　⑪の大型空き店舗対策事業について、県外資本の大型店舗の郊外進出、増改築によって、地元の商店街、店舗が苦戦している。この状況に対して、もっと地場にお金が落ち、地場産業の振興につなげるための行政指導ができないものか。検討をお願いしたい。

○竹内市長　空き店舗問題は郊外の大型店舗進出の影響はあると思う。大店舗法では、周辺環境などへの影響について、指導することはできるが、出店そのものを規制することはできない。市は土地利用や建築規制ができるのみ。本市では、郊外の準工業地域で床面積が１万平米以上の大型小売店舗は規制を昨年の１１月から実施している。１万平米以上では、網が粗過ぎるという意見もあるが、大型店同士の過当競争、経済情勢によって、新たな進出は容易でないとも感じている。

一方で、市に大型店舗ができることは地域にマイナスばかりではなく、高速道路網の整備にも関係あるが、他地域からの購買力の吸引による地域経済の活性化や雇用創出の効果があることも事実。逆に他都市にできてしまうと、こうしたメリットがあまりないことに。

中心市街地の活性化のため、例えば、パレットとっとりの生鮮食料品売場のような生活密着型の店舗、文化の薫りの高い商店街、業務施設の立地、そのほか住宅整備など多面的な取り組みを考えている。

一方では、土地利用規制で大型店舗のこれ以上の進出を防ぎ、他方では、中心市街地の人口増加のため、利便性の高い、魅力のあるまちづくりを行う。

○委員　示された取り組みの方向性、方法について異論はない。実現のために一番大事なのは、財政的な裏づけ。財政的足腰を強くするためには、県、国に働きかけて支援を得ることが必要。関係機関へはどのような働きかけをしているのか。

○企画推進部長　事業を実施するうえで、財源確保は大前提。一般的な方法としては、地域の皆さんの要望等を踏まえた内容で、国や県などの関係機関に要望をし、事業への理解を得ながら進める。また、特に重点的なもの、新規事業などは、市と県の担当部局での協議、県創設の制度などに関して情報交換をしながら、財源確保を図っている。

○委員　②鳥取環境大学入学就職奨励金について、学生に対する奨励金ではなて、鳥取環境大学卒業者を雇い入れた企業に対して奨励金を出すような、学生を対象とした奨励金とは別の制度として新たな仕組みは考えられないか。企業誘致、地域の就労の掘り起こしによる雇用の確保、拡大にもつながるのでは。

○企画推進部長　この奨学金制度は従来、成績優秀な学生に対して市が独自で交付していた奨学金を、市に関係の深い学生を奨励できる内容へと見直したもの。委員ご提案の

内容について、どんな事業展開ができるのかを検討する。

○委員　⑫鳥取駅前の賑わい創出事業について、例えば来年度、新しく高速道の開通による県外からの集客への期待が高まっているが、自動車での利便性が向上することは、県外からのお客様は、ＪＲの利用から自動車に変わってくること。その場合、初めて来られた方への駐車場案内が一番の問題になるだろう。駐車場があれば、まちの散策やショッピングなどができる。高速道の開通と駅前の賑わいは逆の関係もあると思う。この辺の戦略がうまくいかないと、余計寂しい状態になるのでは。ご検討を今後お願いしたい。

一般的な鳥取のイメージは、砂丘と二十世紀ナシぐらい。最近、ラッキョウの花が全国、ＮＨＫのニュースで放映されたが、これが知名度アップになっている。いろんなチャンネルを活用することを考えると、例えば、ＮＨＫの朝のニュース、鳥取の市街地がバックに映しているが、これを砂丘に変更するなど、お金をかけないで、うまく全国な知名度アップにつながるような方法の検討をお願いしたい。

【　数値目標の達成状況について…資料３　】

（数値目標の達成状況について資料３に基づき説明。）

○企画調整課長

①基本構想の数値目標について

・平成１８年度から２７年度までの１０年間の構想。数値目標は２２項目。３年経過したところで、全て達成率３０％以上、１００％達成率の項目もある。

・１００％以上の達成率のものは、今後も継続し、いろんな施策を展開していく。

②基本計画について

・平成１８年度から２２年度の５年間の計画。実施計画に基づき事業を推進している状況のもの。数値目標は１０２項目。

・おおむね達成率は５０％を超えているものが多く、計画期間の半分を経過していることから判断すると、順調に進んでいる。

・達成率が低い項目について、これらの項目は、社会事情の変化などにともない、事業の効率化や制度内容の変更などにより、設定当時の数値目標を見直す必要があるもの。総合計画の基本計画の総括を含めて、数値目標の内容についてご審議をお願いしたい。

ア　総合政策調査委託事業は、鳥取環境大学がスタートしたときに開始したもの。鳥

取環境大学、鳥取大学に市の施策に関する調査研究を委託するもの。地元大学支援の一環であるが、近年、大学が学生確保策を重視しているなど大学支援のニーズを踏まえて、事業の考え方の見直し等を行う。

イ　新規就農者の育成は、平成２１年度以降は毎年「ふるさと就農舎」の卒業生が見込まれるが、引き続き効果的な施策を検討していく必要がある。

ウ　鳥取港の取扱貨物量は、公共事業の減少、これに伴う建設資材取扱量の減少の影響が考えられる。今後、無料の高速道路である鳥取自動車道の開通によって、運搬コストの安さや利便性の向上など関西、山陽方面へのポートセールの強化が必要。

○委員　財政面も非常に苦しい中で、１００％以上の達成率の項目の目標値の引き上げは難しいのではないか。達成率１００％以上のものは、今後はこれを維持していくという努力目標的なものにし、現在、低い達成率のものに対しては周知徹底して、必ず１００％の達成率にすると。取捨選択が必要。

○委員　新・増設企業件数なんかは現時点で２４５．５％と高い。雇用をした人数ではない。達成率が１００％だからもういいということではない。こういう時代だから、経済情勢でもいろいろなことが起こるし、予想しにくい状況。数値そのものも大事だが、中身もしっかり検討してやってもらいたい。雇用増の目標数値を、例えば有効求人倍率とするなど、数値目標の内容も考える必要がある。

○企画推進部長　この数値目標は計画策定時点と情勢が非常に変わってきているものがある。目標数値は、８次総に続く９次総にも視点を置いて、ご意見を踏まえながら現在の数値目標がより有効な指標となるよう検討したい。来年３月の総合企画委員会開催時には、事務局で案をご提示して、ご議論をいただきたい。

○竹内市長　数値目標には多くの項目がある。１００％以上達成できたものはそれを維持し、達成率の低いものに重点を置くことも一つの考え。特に重要な項目であれば、時期を逃さないように取り組む。指標を上方修正したり、場合によっては切りかえるものもあったり、総花的な姿ではなく、選択と集中の考えも重要。維持すべきものは維持し、目標を上げるべきものは上げる。達成率が低いところに重点を置いて取り組む。重点的に取り組む事業は市の経営方針等でも変わってくる。

○委員　総合計画の数値目標のため、前進的な内容でとなるが、最低限、維持しなければいけない項目が計画から落ちる傾向があるのではないか。例えば、生活交通の確保対策は取り組まれているが、その目標値の設定がない。性質上目標数値を設定しにくい

ものは確かにあると思う。水道管の老朽率、更新率は非常に数値化しやすいが、これから高齢化社会が一層進展する中で、これまで免許を持っていた人も安全面から、免許を返上するようなことになれば、公共交通の整備が重要となる。こうした視点も、今度、年度末までの点検のときには考えていただきたい。

○企画推進部長　公共交通の指標としては、１００円バス「くる梨」の利用者数がある。把握のしやすさから項目としているが、市の事業としては、高齢化社会への対応、過疎地有償運送など、新しい手法への取り組みもしている。ご御意見を参考にしながら、市民生活に関連する項目の指標となるよう数値目標を点検する。基本構想、基本計画に定める数値目標の項目を減らすことはない。本日いただいたご意見等を踏まえ、追加すべき数値目標を検討する。

○委員　資源回収率が、平成２０年度、１９．２％。各家庭では結構努力して分別回収をしているつもりだが、達成率が低い。企業のごみが影響しているのか。また、ごみの問題で、ごみの収集計画が１年単位で出ないものかなと。年単位のごみカレンダーがあれば、分別して出しやすくなるのではないか。

○環境下水道部長　この達成率は、一般家庭を対象にした数値。把握はしていないが、企業はＩＳＯ１４００１などに基づいて、リサイクルしている場合がある。ごみの減量化への取り組みの一環として、ごみを減らすことと資源回収をお願いしている。収集計画の件は、１年に１回、毎年３月の市報の中に年間収集計画を掲載している。各月、例えば休日等がある月は前もって、可燃ごみ収集日などを個々にお知らせしている。わかりやすい計画表を心がけて、簡単にごみの分別がわかる手引として、Ａ３版のパンフレットを作成し、配布している。収集日の記載ができるもので、年間分も記入できる内容にすることも一つの方法である。これからもわかりやすい収集計画表を作成していきたい。

○委員　⑰の認定農業者の育成について、将来的な展望から考えてみると、認定農業者の育成は重要な課題の一つ。農協も協力して、認定農業者を育成し、農業に携わってもらうのかを考えてもらい、１年間で３人程度を、もう少し伸びのある状況にしてもらいたい。

○農林水産部長　認定農業者制度というのは、地域の農業を将来にわたって担っていく意欲がある農業者を認定して支援するもの。認定農業者数の伸び率が低いことについて、現在、市、農協、農業委員会、普及所等でチームを組んで、個別に認定農業者の掘り

起こしを行っている。今後も一緒になって地域農業を担う担い手の育成に取り組んでいきたい。

【　第８次鳥取市総合計画「実施計画」素案について…資料４　】

○企画調整課長　平成２０年から２２年度までの主な１００事業について、２０年度は実績見込み、２１年度は、現在予算編成作業中であり、予算が確定した後、２２年度の歳入等も調整した上で、改めて実施計画の確定版をつくるというもの。

（実施計画各省別に概要説明：説明内容は、資料４を参照）

○委員　全国的な医師不足問題について、取り組みの計画は盛り込まれているのか、また、なければ今後に盛り込む計画があるのか。

○事務局長　医師確保対策として、市立病院では、この１２月議会に病院独自の奨学金条例を提案する予定。初期臨床研修医、また後期臨床研修医等の獲得を目指したもの。ただ、東部地域全体での医師不足に対しては、市立病院だけが努力してもどうにもならない。県全体あるいは市行政としても真剣に取り組んでいただかなければ。市立病院だけが救急病院を担当してわけではなく、県立中央病院、赤十字病院、市立病院、生協病院、この大きな４つの病院が主に救急医療を担当している。ご指摘のとおりそれぞれの病院が十分な医師を確保できていない状況。地域全体で医師を確保しなければならない。総合計画に市立病院の取り組みとして盛り込むことは可能であろうが、市全体の計画に取り入れるのは難しい。

○竹内市長　総合計画に具体的に盛り込める事業は、基本的には市立病院の事業として、医師確保の奨学金給付がある。保健医療の体制づくりは様々な取り組みが考えられ、東部広域の救急車の体制、医療機関の救急体制づくりも重要。鳥取大学と県内４市の懇談会では、医師確保、医療体制の整備が４市の共通課題。地域の中の医者と総合病院の活用方法、コンビニ診療（コンビニのように２４時間）のような体制はどうか、などとともに、患者に医者のかかり方を考えてもらうことも議論にしたい。市は引き続き考えていかなければならない。健康づくり、健康診査の公的支援、普及活動などによる受診率の上昇による早期発見、早期治療による健康づくりへの取り組みを全般的にもう一回見直して、事業に加えたい。

【「ローカルマニフェスト」の取組状況について…資料５】

○企画調整課長補佐　このローカルマニフェストは第８次総合計画の施策のうち、特に優先的、重点的に取り組みをするものを５つのテーマに分けて掲げたもの。

平成１８年度から２１年度の４年間の目標、施策と、平成１８年から１９年までの実績、平成２０年度に取り組む施策で構成。平成２０年度の取り組み内容は、随時変更、修正している状況で、平成１２月市議会での補正予算確定後に執行する事業なども記載している。

第８次総合計画の進捗とあわせ、このローカルマニフェストの取り組みも順調に進行しているものと認識している。

（３）その他

【「２００９鳥取・因幡の祭典」について】

○鳥取・因幡の祭典推進局長　平成２１年に自動車道河原インターの開通を記念して実施する「２００９鳥取・因幡の祭典」についての報告

・オープニングイベント『世界砂像フェスティバル』の前売り入場券の発売等

・成功に向けた盛り上げ、ＰＲの協力依頼など

・現在の「砂の美術館」の入館者数が約３０万人。目標を１カ月も早くクリア。

・地域経済の落ち込みを食い止めるためにも、『世界砂像フェスティバル』を成功させたい。

○委員　『世界砂像フェスティバル』を成功させるため、皆さんが一生懸命活動している。我々もできるだけ協力していきたい。

○竹内市長　来年は鳥取自動車道が河原インターまで開通し、京阪神、山陽側と一層近くなる。我々は鳥取の魅力に磨きをかけ、多くの方に滞在していただく企画を立てている。まず、地元の我々自身が積極的に参加し、ＰＲにも努める。委員の皆様方も盛り上げていただきたい。

鳥取産業会館・鳥取商工会議所の新しいビルがほぼ完成し、中心市街地や地域産業の活性化の拠点となると思う。年末の一つの明るいニュース。６回目を迎えるイリュージョンは鳥取青年会議所の皆さんの力で続けられている。若桜橋のイルミネーションはまちなかの明るい話題ではなかろうか。

ご参加いただいた委員の皆様に重ねて感謝を申し上げ、終わりの言葉とさせていただきたい。

６閉　会